

図書館・医療・福祉の連携でできること

障害者週間イベント
がん情報をもっと身近に
～図書館と医療が繋がる時！～
2014年12月7日
田村俊作
(慶應義塾大学文学部)

1

本日の話

1. つなぐ図書館: 図書館がなぜ医療や健康に関わるのか
2. 連携する理由: 図書館・医療・福祉が連携するとどんな良いことがあるのか
3. 図書館が入った連携の例

2

1. つなぐ図書館

(1) 本のある場所

- 図書館は何よりもまず、本を読むところ
- いろいろな本が置いてあり、誰でも気軽に立ち寄って、好きな本を利用できる

3

例: 堺市立図書館

- 人口 841,845人
- 蔵書数 1,952,387点
- 12館の年間施設利用者数 2,527,180人

(平成26年度図書館概要: 平成25年度統計と活動 堺市教育委員会, 2014)

4

(2) 誰でも気軽に立ち寄れる場所

- あらゆるジャンルの本が置いてある。本の利用に目的は問わない
- 自治体が提供してくれるので、安心して利用できる

5

• 利用者の声(1)

KUF: [ビジネス支援というと]商工会議所関係なイメージでしたよね。だから逆に商工会議所でなく図書館でやるので安心っていうんですか？他の方も誰かおっしゃってましたよ。商工会議所でやるとお金がどこから借りなさいとか、絶対起業するのね、みたいなことで言われちゃいそう。(略) 図書館でやるビジネスセミナーだと、ちょっと起業したいかなっていう軽い、いずれはしたいかな、と。もしかしたらしないかな、と思ってもとりあえず聞ける

(ビジネス支援サービスの利用者への聞き取り調査から)

6

• 利用者の声(2)

KUC: [「行き慣れているから敷居が低く感じるのでは」という問に対して][それもそうだが]誰でも入れるわけですし、信用もありますよね、市がやってるから

(ビジネス支援サービスの利用者への聞き取り調査から)

7

(3) 専門情報への全方位の入口

- 図書館に置いてある本は、読んでおもしろい本、教養や視野を広げてくれる本だけではない
- 私たちが生きていく上で必要な知識や知恵を教えてくれる本もたくさん置いてある
- ・地図、旅行ガイド、料理の本、編み物の本、コンピュータの本、ガーデニングの本

8

堺市立図書館にもたくさんあります

- 堺市立図書館の「各種ブックリスト」というウェブページにはさまざまな知識の本、役に立つ本が紹介されている
- 例えば、「パパの子育て応援します！」には、次のような本が紹介されている

『新しいパパの教科書』（ファザーリング・ジャパン著 学研教育出版 2013）

『忙しいビジネスマンのための3分間育児』（おおたとしまさ著 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2013）

9

各種ブックリスト

図書館で各種テーマごとに作成したブックリストを掲載しています。
こども向けおすすめブックリストはこちらです。

目次

- [各館ブックフェアで作成したブックリスト](#)
- [西図書館健康情報コーナーのブックリスト](#)
- [各種テーマのブックリスト](#)
- [図書館で解決付属のブックリスト](#)
- [年代別おすすめ本リスト](#)

各館ブックフェアで作成したブックリスト

ブックリスト名	作成館	作成年月
11月 今日は何の日？(日替わりブックフェア)	東百舌鳥分館	2014.11
農のある暮らし	南図書館	2014.11
10月 今日は何の日？(日替わりブックフェア)	東百舌鳥分館	2014.10
からだを動かそう	南図書館	2014.10
9月 今日は何の日？(日替わりブックフェア)	東百舌鳥分館	2014.09
いつまでも健やかに	南図書館	2014.09

10

当然医療や健康に関する本もたくさんあります

- 堺市立西図書館には「健康情報コーナー」というコーナーがあり、医療や健康維持に関連する本やDVD、雑誌、パンフレットなどが置いてある

11

例えばこんな本やパンフレットがあります

- 病気の診療についてわかりやすく解説した本としては『患者さんのための乳がん診療ガイドライン』2014年版（日本乳癌学会編 金原出版 2014）
- 実際に病気にかかった人の体験記としては『闘病記専門書店の店主が、がんになって考えたこと』（星野史雄著 産経新聞出版 2012）
- 病気や薬について書かれたパンフレットの例としては『がんの冊子 がんと療養シリーズ206 もしも、がんと言われたら』（国立がん研究センターがん対策情報センター 2012）

12

(4) 連携によるサービスの充実へ

- 図書館が持っているのはいろいろな分野の入門的な本、情報。関係者や関係機関と連携することで、その特徴を活かして一層地域の役に立つ充実したサービスを提供できるようになる

両方の特長を活かしたサービスを共同で提供できる

図書館：蔵書やサービスについていろいろな分野の関係者、関係機関から助言を得ることができる。図書館では対応できないような相談を紹介することができる

関係者、関係機関：利用者の役に立つ本や資料を紹介できる。自分たちのしごとを紹介する場にすることができる

13

例えばこんな連携があります

- 岩手県紫波町図書館と農業関係団体との連携



14



紫波マルシェの野菜に、レシピと図書館の本を紹介するポップが

15

紫波町図書館



16



もちろん、図書館には紫波マルシェ
とレシピ本の紹介コーナーが

17

2. 医療・健康で連携する理由

(1) 情報が必要になるとき

- 病気によって自分自身や家族の人生が変わることもある
- 自分の身体を知る。いざというときの対処法を知ることが重要

18

- 健康維持のために何をしているか、知識をどこから得るか

健康法を実践する

定期検診により自分のからだの状態をモニターする

19

- 病気になったときどうすれば良いか、何を知れば良いか、誰に相談すれば良いか

病院選択のこと、病気のこと、検査のこと、治療法のこと、薬のこと

医師との関係のこと、仕事のこと、治療費のこと、食事のこと、運動のこと

心の支えのこと

等々

20

- さらには死んだ後のこと
葬儀, お墓, 遺産相続

21

(2) どこに・誰に情報を求めるか

- 問題となっていることがらによって相談先, 尋ねる先が変わってくる

22

情報の収集先・相談先

- 医療機関・相談支援窓口: 医師・看護師, がん相談支援センター
- 堺市健康福祉局, 保健センター
- 図書館(公立図書館, 患者図書室, 大学図書館等)

- 人々はこれらを使い分けることができるか?
- 定期検診のときは? 医療費のことは? 食事は?
- 障がい者の情報収集先・相談先は?
→図書館, 医療, 福祉が連携する必要性

23

連携の効果

- 自分の身近なところに相談すれば, 適切なところを紹介してもらえる
- 自分や家族に関連したイベントや情報に触れる機会が増える

24

図書館が加わることの効果

- 病院, 医師・看護師といった医療の専門家
- 市役所や保健センター
- 図書・図書館

まとまった情報を整理して入手するには図書が良い
図書館の本は大切な情報源。しかし、本に書かれている
ことを超えて健康維持や病気に立ち向かおうとするときに
は、図書館では力不足。専門家の助けがいる

25

3. 図書館が入った連携の例

(1) 滋賀県東近江市

- 住民自身による地域づくり, 健康づくりに図書館が参加して

三方よし研究会(東近江地域医療連携ネット
ワーク研究会)と能登川図書館の健康医
療情報コーナー「バオバブ」

26

東近江市立能登川 図書館の健康医療 情報コーナー「バオ バブ」



雑誌コーナー

28



地域情報のひろば

(2) 岐阜県多治見市

- 県立多治見病院患者図書室「ぬくた〜らいぶらり」と多治見市図書館の連携



多治見市立図書館・医療情報コーナー 闘病記文庫



ぬくた〜らいぶらりの案内



(3) 長崎県長崎市

- 病院と行政部署と図書館の連携

長崎大学病院・長崎市立市民病院・長崎原爆病院のがん相談支援センター, 長崎県医療政策課, 長崎市立図書館

図書館のがん情報コーナー

連続講座「図書館でがんを学ぼう」と市民病院お出かけ隊による相談会

『がんと向き合う サポートブック ながさき』の共同編集

[長崎市立図書館「がん情報サービス」ビデオ](#)